

- 3月の米個人消費支出は2カ月連続で伸びが鈍化した。実質ベースでは前月から持ち直し。価格指数は前年同月比+4.2%と、2021年5月以来、およそ2年ぶりの低い伸びも、依然として高水準。
- 5月2-3日のFOMCで、政策金利0.25ポイント引き上げの見方が市場で優勢か。ただし、6月13-14日は金利据え置きの見方が6割を超えており、早くも6月のFOMCの動向を探る動きが強まるか。

3月の米個人消費支出は前月比横ばい

4月28日に発表された3月の米個人消費支出(PCE)は前月比横ばいと、2カ月連続で伸びが鈍化しました。実質*PCEは同横ばいと、前月の同-0.2%からは持ち直しました。*物価上昇の影響を除いたベース

実質PCEの内訳をみると、「モノ(財)」は同-0.4%と、2カ月連続で減少しました。耐久財は同-0.8%と、前月の同-1.3%からマイナス幅は縮小しました。非耐久財は同-0.1%と、3カ月ぶりに減少しました。「サービス」は同+0.1%と、2カ月ぶりに増加しました。

個人所得は同+0.3%と、伸びは前月とほぼ同水準でした。貯蓄率は5.1%と、昨年1月以降で最も高い水準となりました。

物価関連指標の上昇率は鈍化も、依然高水準

米連邦準備理事会(FRB)が物価指標として参照するPCE価格指数は前年同月比+4.2%と、2021年5月以来、およそ2年ぶりの低い伸びとなりました。

このうち、振れの大きい食品とエネルギーを除いたコアPCE価格指数は同+4.6%と、前月の同+4.7%から小幅に伸びは鈍化しましたが、今年に入ってから3カ月間は鈍化傾向にやや歯止めがかかりつつあるようにもみえます。

6月FOMCでの金利据え置きの見方が6割超え

PCE価格指数やコア指数の伸びが依然として高水準にあることなどから、5月2-3日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)では、政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利誘導目標を現在の4.75~5.00%から5.00~5.25%へ0.25ポイント引き上げるとの見方が市場で優勢になっている模様です。

FF金利の先物取引をもとにシカゴ・マーカントイル取引所(CME)が算出する予想確率をみると、8割を超える水準となっています。

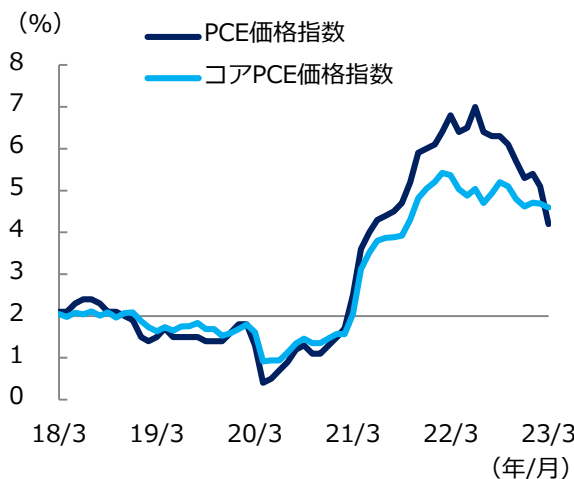
ただし、その後6月13-14日の会合では5.25~5.50%へさらに引き上げるとの見方は4分の1程度にとどまっており、金利据え置きの見方が6割を超えています。根強い景気減速・後退懸念などがその背景にあるとみられます。

こうしたことから5月の利上げはおおむね織り込み済みと考えられ、足もとでは早くも6月のFOMCの動向を探ろうとする市場の動きが強まると思われます。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

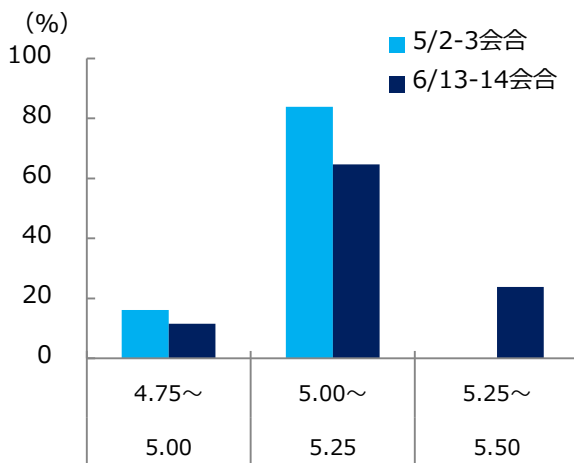
米PCE価格指数の推移



※期間：2018年3月～2023年3月(月次)
前年同月比

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

FF金利予想確率



※FF金利は誘導目標、4月28日時点

出所：CMEのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。